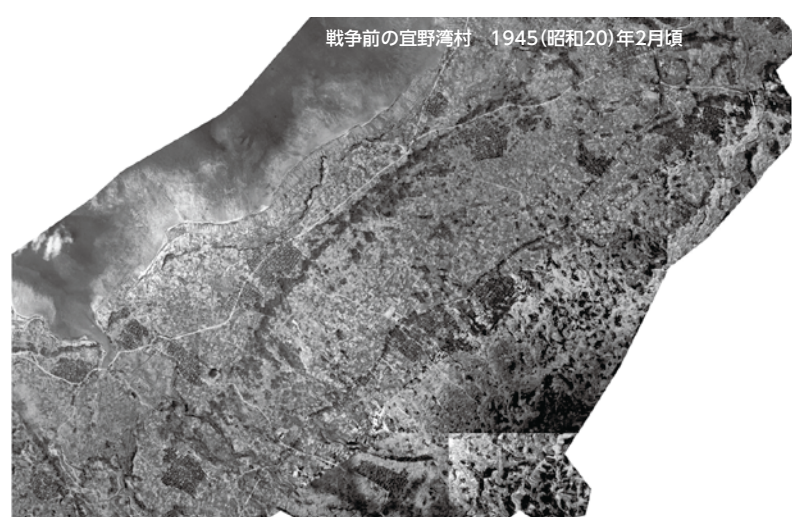


**「空からみる
わたし達の宜野湾」**

上の写真は、1945(昭和20)年2月頃に米軍が撮影した宜野湾村(当時)です。村行政の中心地、字宜野湾には村役場や国民学校、市場等がありました。また、嘉数から普天間までの間には宜野湾並松街道がありました。街道沿いに神山や中原、新城等の集落があり、村全体を通してサトウキビやイモを主産業とする農村でした。しかし、45年4月からの沖縄戦で多大な被害を受



戦争前の宜野湾村 1945(昭和20)年2月頃

村の南北を通る宜野湾並松は、琉球王朝時代に植付けられ、当時、国指定天然記念物として地域住民に親しまれていました。

けました。

下の写真は、戦後、45年12月の宜野湾村です。村中央には普天間飛行場、北西側にはキャンプ瑞慶覧等、各地に米軍施設が設けられました。戦前の原風景が失われ、宜野湾は大きく変貌しました。字宜野湾や神山等の集落、並松街道のほとんどが基地となり、代わって軍用道路5号線(現在の国道330号)が新たな南北線として作られ、現在の宜野湾市につづく街の形成がこの時に作られました。

「宜野湾市史」への問い合わせ
宜野湾市立博物館 ☎870-9317



戦後の宜野湾村 1945(昭和20)年12月

村中央には沖縄戦の最中に作られた普天間飛行場があり、至る所に軍用施設がありました。

其の25

〈各地域の文化財②〉

神山・愛知ヌールガー

文化財は気付かないだけで色々な場所にあります。神山・愛知ヌールガーもそうです。宜野湾小学校近くの交番前の道を普天間飛行場側に進み、案内板に従って右に曲がります。スージグアー(小さな道)を塀に沿って歩くと、木々の中にたたく湧泉があります。これがヌールガーです。

このヌールガーはノロ(神女)に関する湧泉と伝えられています。その起源は定かではありませんが、戦前までは、神山集落の草分けの比嘉家が拝んでいました。戦後からは神山郷友会が拝み、ハウチビ(初御水)の際に巡拝します。また、字愛知では最も古い泉で、古くから産泉(ウブガー)として拝まれています。ヒヤーイ(干ばつの時には、ここから水を汲んだといえます)。

神山と愛知では、毎年、カーサレー(清掃)を行いこの泉を大切にしております。泉は、平成25年3月28日に宜野湾市の登録文化財に登録されました。

お問合せ:文化課 ☎893-4430



神山・愛知ヌールガー

ぎのわんの 歴史・文化遺産 を歩く